

僧俗ともに、朝夕に香華を供養し、法華を回向されんことを

日蓮聖人御真筆の十界大曼荼羅御本尊

〔複製〕

宗定 臨滅度時御本尊

鎌倉比企谷妙本寺 蔵

解説 中尾 堯・渡辺宝陽



宗定 臨滅度時御本尊

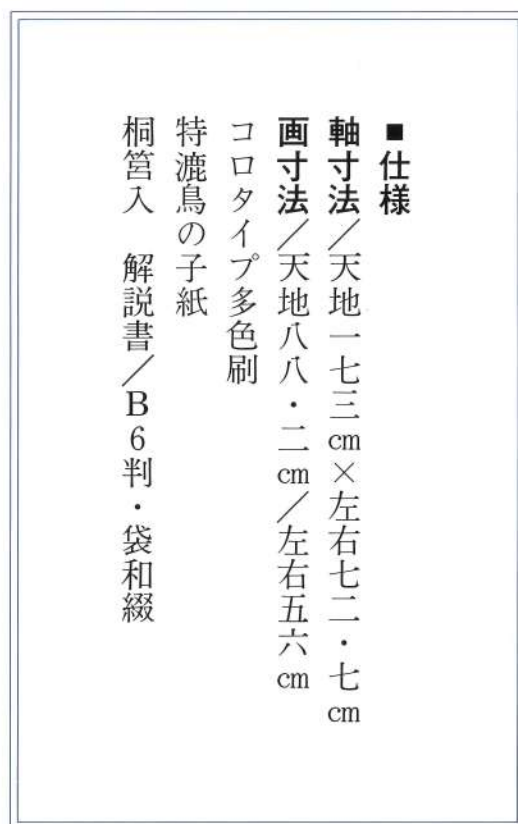
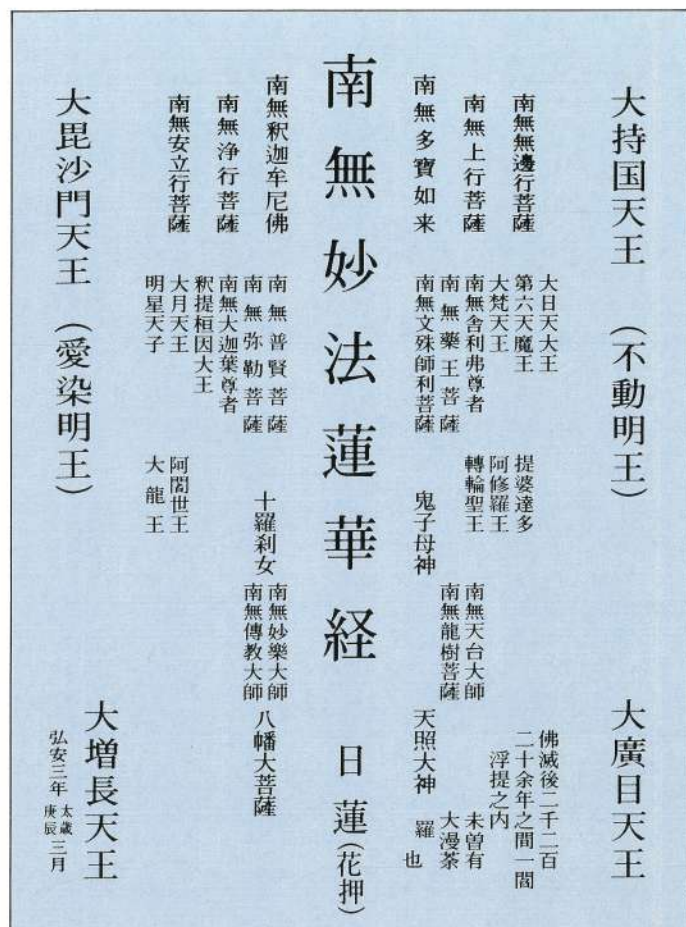
● 解説 中尾堯・渡辺宝陽

● 鎌倉比企谷妙本寺 蔵

刊行にあたって

弘安3年3月に、日蓮聖人が身延山において図顕された大曼荼羅は、聖人御入滅に臨んで掛けられたため「臨滅度時御本尊」またはその筆致（御題目の「蓮」字の光明点が蛇行）から「蛇形本尊」と呼ばれています。大曼荼羅御本尊のうち、本御本尊は力強く、流麗で、完成され、日蓮聖人の弘教活動の集約として位置づけられます。昭和40年には日蓮宗檀信徒が奉安し、宗門を挙げて仰ぐべき御本尊として宗定されたものです。

今回この御本尊を原本の4分の1の寸法で完全複製し、御案内します。



発行所／同朋舎出版

〒600 京都市下京区中堂寺鍵田町2

TEL.075-343-0621